戦地からの手紙

【資料名】〔書状〕（マレー要衝爆撃作戦について報告）
（大内郡与田山村渡瀬家文書　１０５―１８３２）
【年代】昭和１７年２月２７日（受付印）
【作成】浜松市松本旅館丸山義正　→　香川県大川郡福栄村渡瀬貞殿
【解説】

本資料は、南方に派遣された隼部隊丸山義正氏が、故郷の村長渡瀬氏に宛てて書いた私信である。丸山氏が当時派兵されていた場所はマレー半島で、ハワイ海戦と同時進行的に行われたマレー作戦への動員と思われる。

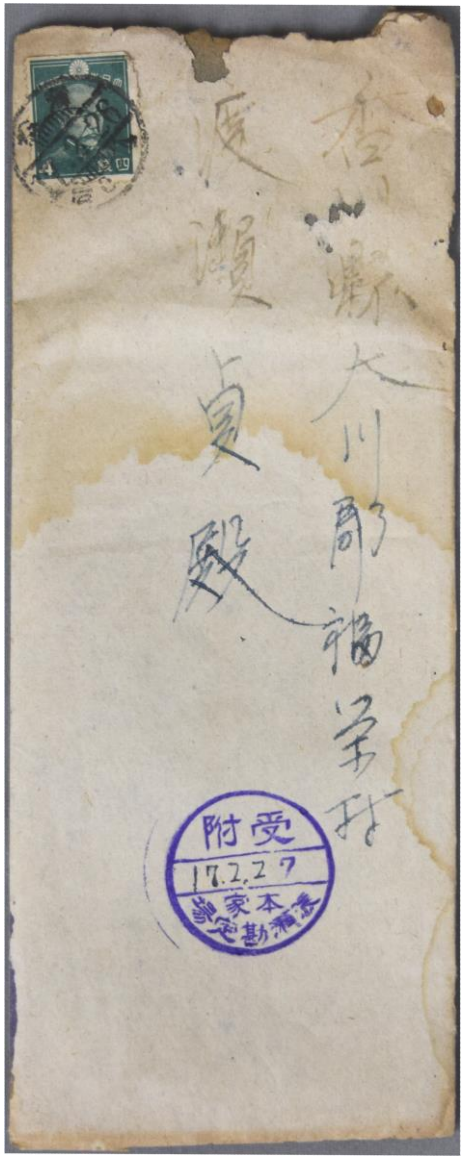
マレー作戦とは、昭和１６年（１９４１年）１２月８日、マレー半島に奇襲上陸した日本軍が、英国軍を約７０日間で破り、最終目的地シンガポール要塞を攻略（昭和１７年２月１５日）した進攻作戦である。あらゆる資源が枯渇し困窮していた日本政府にとって、石油やゴムなどの資源が豊富な南方地域は絶対に獲得したい場所だった。この隼部隊の活躍は南下政策に大きく貢献するものとなった。

本資料が実際に書かれた日時については、文中に「最近は敵戦闘機がなくなった」とあることから、在シンガポールイギリス空軍が壊滅した昭和１７年１月２６日から２月４日の間に書かれたと推察される。

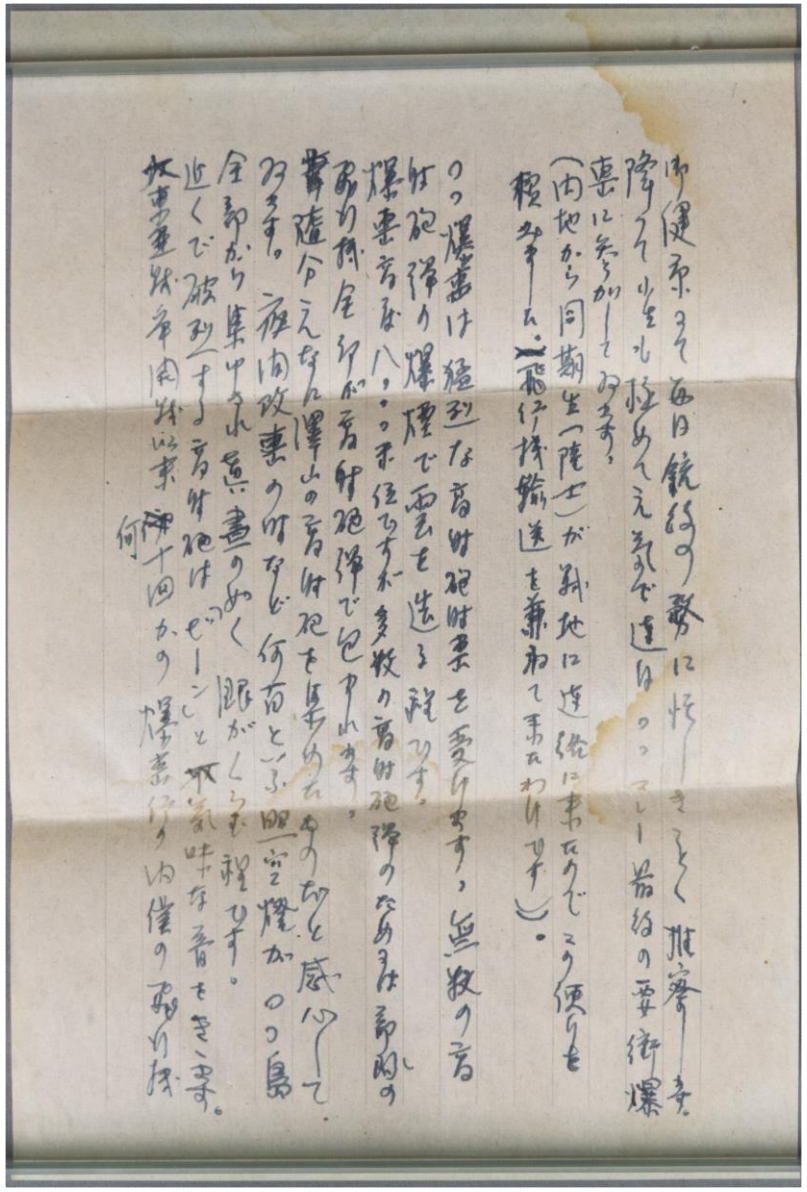
内容については、その他の軍事郵便には見られないほどの肉薄した描写が随所にあり、現場の壮絶さを伝える史料となっている。特に、彼らを狙い撃つ英国軍の高射砲に関しての記述が多い。

ちなみに高射砲は、空中で破片を炸裂させて機体に損害を与える榴弾兵器であり、戦闘機への命中率は、数千発撃ってやっと一機撃墜できる程度とかなり低かった。彼は別の書簡において、「さすがに英国製の高射砲は正確です。既に二十回近い爆撃行中僕の飛行機には三回高射砲破片弾を受けました。」などと評価をしている。

その後、昭和１７年６月のミッドウェー海戦敗北を境に、太平洋における日本軍の優勢は崩れ始める。白鳥町史によると、昭和１９年１２月１４日に丸山氏は戦死された。場所は激戦地フィリピン島ネグロス島西南方海面、いわゆるレイテ島の戦いの最中であった。

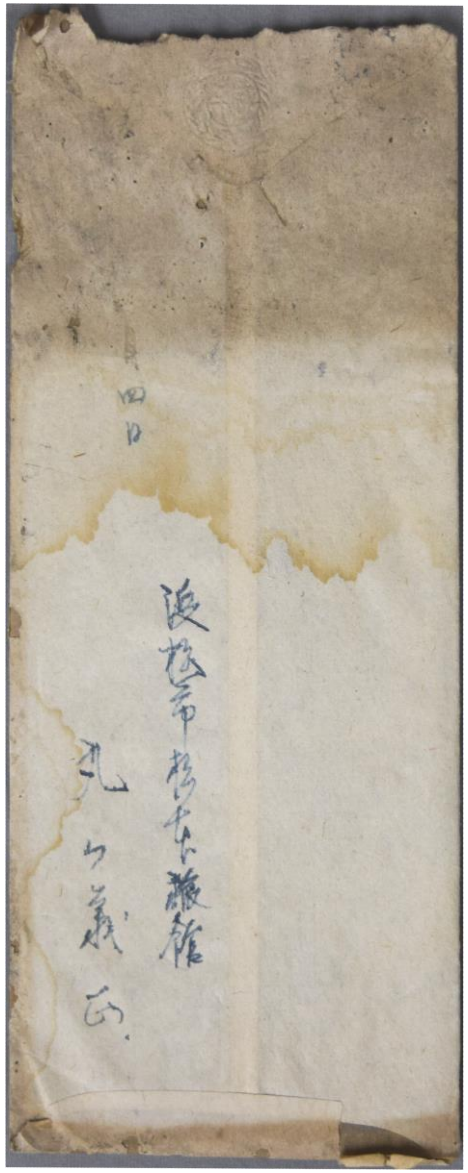


デジタル資料室　戦地からの手紙



御健康にて毎日銃後の勇に怪きこと北寧一帯
陣にて少生も極めて元気で進ひのつまらぬ器物の要術爆
薬に苦かりてゐます。
（内地から同期生（陸士）が新地に送（後に書たりでこの便りも
積ります。）飛行機輸送を兼ねて来たわけです）。

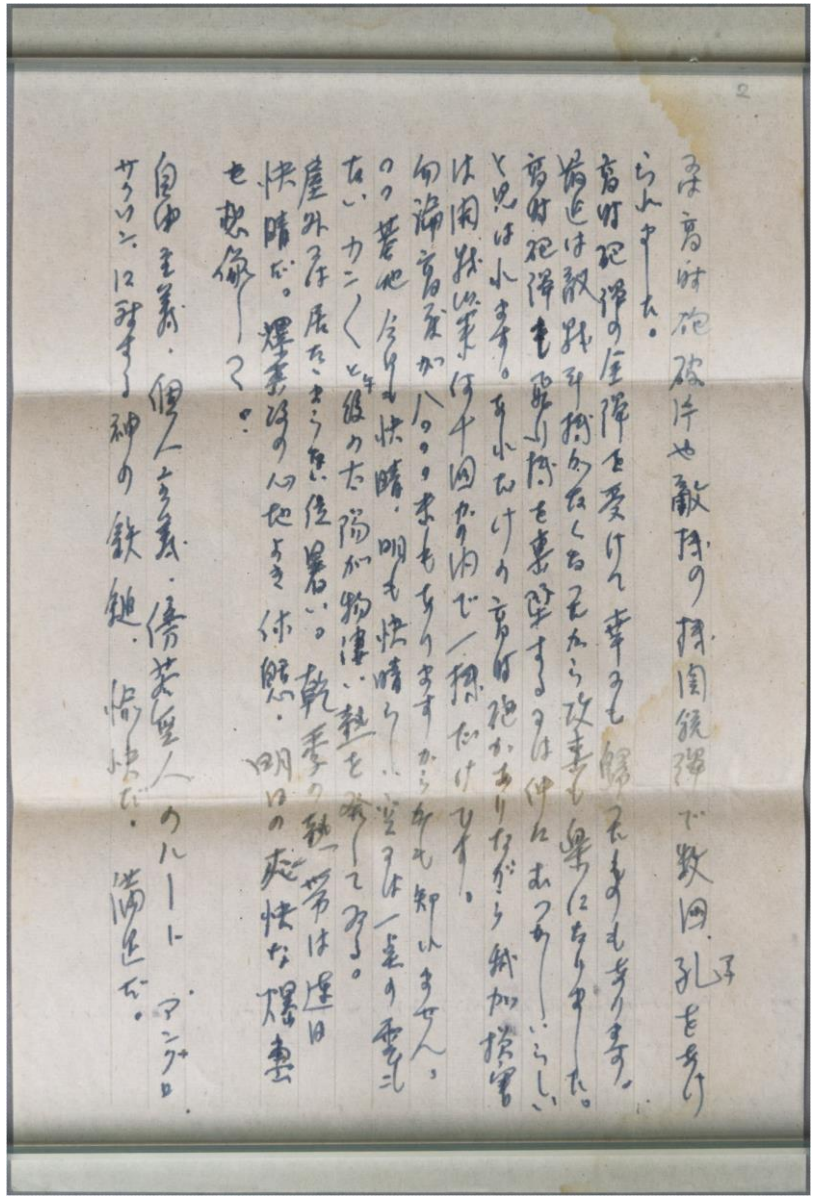
のつ爆薬は猛烈な音が砲弾来を変ります。無数の音
が砲弾の爆煙で雲を造る様です。
爆薬音なれ。のつ位ひすが多数の音が砲弾のなる様命内の
あり様全部が砲弾で包まれます。
誓隊今えなん澤山の音が砲を集めたものかと感心して
ゐます。夜内政策の灯など何百といふ四空燈かのつ島
全部から集中された爆薬のごく眼がくらむ程です。
近くで破裂する音が砲はモーンと不気味な音をきます。
水雷並に第帝国陸軍内地以来 神十四かの爆薬行の内僅の為の様
何



四月

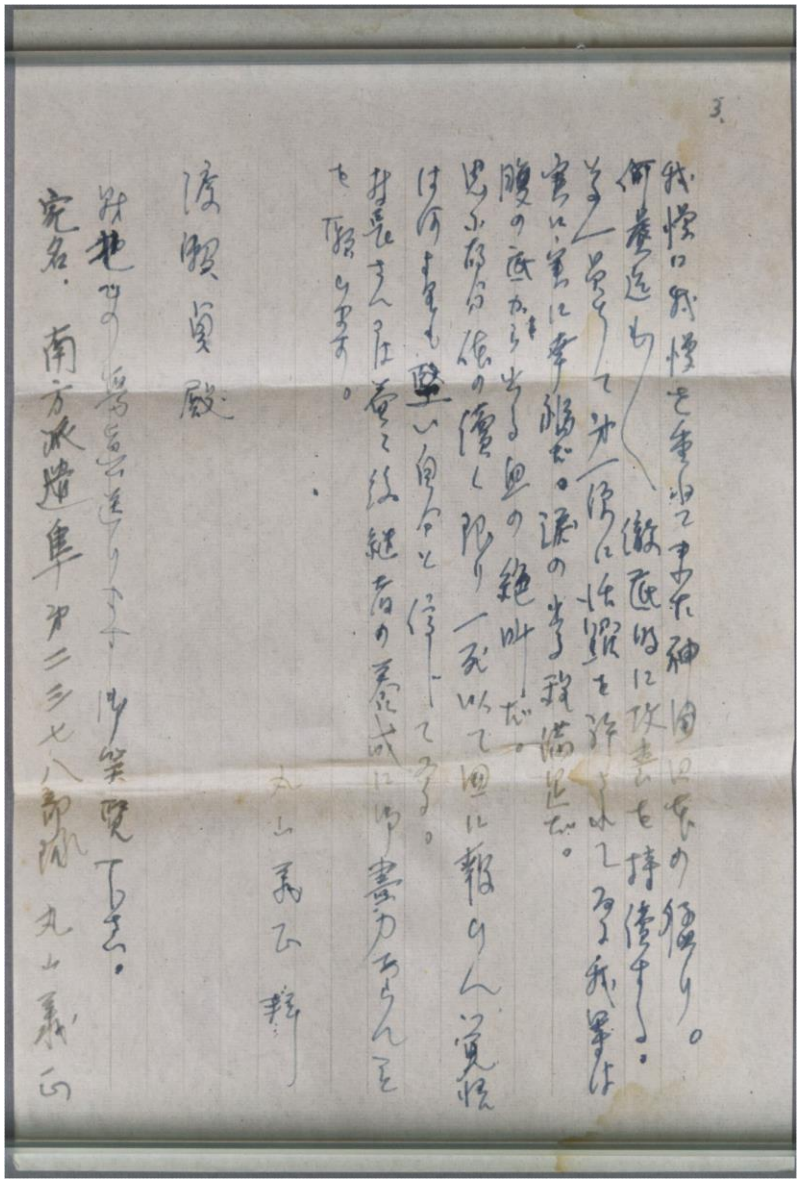
後藤常吉様 護館

九州義正



2

孫高射砲破片也敵弾の弾痕銃弾で数回孔を穿ちました。
高射砲弾の全弾を受けて幸ひも帰還致します。
指揮は敵弾の為めなくなる迄攻撃も集中致しました。
高射砲弾も集中射撃するは伊丹おつかいらしい
と見ては小生。丸山けの高射砲かありながら敵加撃
は間断なく千回かの内で一発だけです。
何論高射砲が八〇〇米もありますから何も知りません。
のの著他今日も快晴。明も快晴らしい。空は一点の雲も
ない。カンカンと強力な陽が物凄く熱を帯てます。
屋外は居たまらない位暑い。乾季の秋一番は暑日
快晴だ。煙草は日の如き休憩。明日の愉快な煙草
也想命〜〜。
自由主義・個人主義・傍若無人のハーレム・マンゴー
サクランボに対する神の鉄槌。愉快だ。満足だ。



3.

我慢の我慢を重ねて来た神国日本の強力。
何者迄も〜〜徹底的に攻撃を持続する。
第一番目に第二番目に第三番目に
実に実に幸福だ。誠の幸福満足だ。
腹の底から出る真の絶叫だ。
思ふ存分俺の信じ所に一死以て国に報ひん覚悟
はいつまでも堅い自分と信じてゐる。
お兄さんは奥さん紹介の家庭に中書力ちんを
も願ります。

丸山義正 拝

渡辺翼殿

戦地の高岳より少笑覧下さい。
完名・南方派遣隊 第二三七八部隊 丸山義正

【翻刻文】

〈封筒表〉

香川県大川郡福栄村

渡瀬貞殿

（昭和）１７年２月２６日（消印）

（昭和）１７年２月２７日（本家渡瀬勘定場受付印）

〈封筒裏〉

□月４日

浜松市松本旅館　丸山義正

〈１枚目〉

御健康にて毎日銃後の務に忙しきことゝ推察します。
降って小生も極めて元気で連日〇〇マレー最後の要衝爆
撃に参加してゐます。
（内地から同期生（陸士）が戦地に連絡に来たのでこの便りを
頼みました。飛行機輸送を兼ねて来たわけです）。

〇〇爆撃は猛烈な高射砲射撃を受けます。無数の高
射砲弾の爆煙で雲を造る程です。
爆撃高度八〇〇〇米位ですが多数の高射砲弾のためには部隊の
飛行機全部が高射砲弾で包まれます。
随分こんなに沢山の高射砲を集めたものだと感心して
ゐます。夜間攻撃の時など何百といふ照空灯が〇〇島
全部から集中され真昼の如く眼がくらむ程です。
近くで破裂する高射砲は「ビーン」と不気味な音をきゝます。
大東亜戦争開戦以来何十回かの爆撃行の内僕の飛行機

〈２枚目〉

には高射砲破片や敵機の機関銃弾で数回孔をあけ
られました。
高射砲弾の全弾を受けて幸にも帰ったものもあります。
最近は敵戦斗機がなくなったから攻撃も楽になりました。
高射砲弾も飛行機を撃墜するには仲々むつかしいらしい
と思はれます。あれだけの高射砲がありながら我が損害
は開戦以来何十回かの内で一機だけです。
勿論高度が八〇〇〇米もありますからかも知れません。
〇〇基地今日も快晴。明も快晴らしい空には一点の雲も
ないカンくと午後の太陽が物凄い熱を発してゐる。
屋外には居たゝまらない位暑い。乾季の熱帯は連日

快晴だ。爆撃後の心地よき休憩。明日の爽快な爆撃を想像しつゝ。
自由主義、個人主義、傍若無人のルート、アングロサクソンに対する神の鉄槌。愉快だ。満足だ。

〈3枚目〉

我慢に我慢を重ねて来た神国日本の猛り。
何時迄もく徹底的に攻撃を持続する。
その一員として第一次に活躍を許されてゐる我等は実に実に幸福だ。涙の出る程満足だ。
腹の底から出る血の絶叫だ。
思ふ存分体の続く限り一死以て国に報いん覚悟は何よりも堅い自分と信じてゐる。
村長さんには益々後継者の養成に御尽力あらんことを願ひます。

丸山義正拝

渡瀬貞殿

戦地での写真送ります。御笑覧下さい。
宛名南方派遣隊第二三七八部隊丸山義正